

歴史民俗資料館で拓本体験

拓本は、墨を使って土器、瓦、青銅器、銭貨などの文様を紙に写しとる作業です。市内にある国指定史跡泉坂下遺跡で見つかった土器も拓本をとって記録しています。

どんな方法で行われているのか、市歴史民俗資料館の拓本体験に参加し、学芸員に拓本のやり方を教えてもらいました。

【拓本の手順】

(1) まず、道具と土器を用意します。墨、タンポ(綿を絹布などで包んで球状にし、しばった部分を棒状にして持ちやすくしたもの)、はさみ、脱脂綿、画仙紙、水、土器を使用します。



(2) 土器の大きさに合わせて画仙紙を切ります。



(3) 画仙紙の表と裏(毛羽立っている方が裏)を確認し、表が上になるように土器にあてます。水に濡らした脱脂綿を画仙紙に押し当てます。全体に画仙紙が張りついたら乾かします。



(4) 少し乾いて紙が白くなったら、タンポで墨を打っていきます。墨を何度も重ねて濃くしていきます。



(5) ゆっくりとはがして乾かしたら完成です。縄文土器の凹凸がはっきり写し取れました。



【参考文献】文化庁文化財部記念物課『発掘調査のてびき—整理・報告書編一』

歴史民俗資料館 拓本体験

参加費：無料 所要時間：約15分から30分

※要電話予約

※体験後、拓本は記念に持ち帰ることができます。

■問い合わせ■

常陸大宮市歴史民俗資料館 電話：52-1450